

2014年度 教師海外研修 研修報告書

派遣国：タンザニア

学校名：川崎市立橋高等学校

担当：国際部

氏名：鶴嶋 麦

1. 今回の研修における目的やねらい

国際協力の現場を実際に体験し、その生の体験を生徒たちに還元したいと思い応募した。私が現在勤務している川崎市立橋高等学校には国際科があり、カリキュラム内で国際理解教育に取り組んでいる。授業では途上国や貧困問題等について学習し、その成果をグループごとに発表している。また、国際理解講演会や開発教育ワークショップ等を年に複数回行ったり、各国際協力機関や団体への訪問を通して、生徒たちが国際的な諸問題に関心を持ち、理解を深められるように努めている。橋高等学校に赴任してからの2年間、主に国際科の授業を担当し、生徒たちと共に国際理解教育を学んできた。今年度からは新1年の担任として、主担当として国際理解教育を行っていくことになっている。しかし、頭では理解していても、実体験がないのに真の言葉で伝えられるかという疑問が生じていた。是非この機会に開発援助の現場を体験し、教員として新たな一步を踏み出したいと思っている。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

とても密度の濃い研修であり、満足度で言えば120%を超えると思う。研修内容も多岐に渡り、研修場所（訪問地）もそれぞれに特徴のある地域をコンパクトに回ることができた。これはひとえに今回の研修を担当してくださった JICA 横浜やタンザニア事務所の方々の入念な準備のお陰だと思う。けっして1人では行ったり見学したり出来ないような場所が視察でき、現場で活躍する多くの人々と触れ合う機会も用意されていた。今までにない貴重な体験をすることができた。この場を借りて、改めて関係者の方々に感謝の意を表したい。さて、達成度について言えばそれはこれからだと思う。この研修の最終目的は、今回私たちが研修で得たものを子供たちに還元することであるからだ。どうやって伝え、どのように触発するか、今はまだ試行錯誤の状態である。あまりに得た情報量が多くて、自分の中でまだ整理ができていない。しかし、いずれ達成度100%を目指して、今回の研修で得たことを1つも無駄にせずに活かしたいと思っている。

3. タンザニアから学んだこと

タンザニアの今と未来（可能性）について、またタンザニア人の気質や生活について学んだ。

①タンザニアの現状

年率7%の経済成長を遂げている発展目覚ましい国である。しかし、まだ最貧国のランクに位置していて、経済発展に伴って貧富の格差が広がっていること。つまり、底辺の底上げがなされずに上層部だけがさらに上へ行ってしまっている現状。貧富の格差の拡大による治安の悪化は不安材料のひとつであるように思う。

②タンザニアの可能性

若い国であるということ。人口の比率が綺麗なピラミッド型で、30歳未満の若者が7割以上を占めている。労働力の供給や購買層の拡大という点では申し分なく、あとは若者に職を提供できるかどうか今後の課題であろう。“援助ではなく投資を”という東アフリカ会議における声明がキーワードのような気がする。日本大使館や JICA も共通認識であったように思う。

観光資源に溢れているということ。サファリ、キリマンジャロ、海辺のリゾート、歴史遺産など、

まだ十分に活かしきれていない財産が無数にある。また、天然ガスや鉱物等の資源も新たに見つかっているとのことで、この国には計り知れない可能性があると思った。

③周辺国への影響

海に面しているタンザニアは、周辺の内陸国への物資の重要な中継地となっている。港湾施設や輸送路の整備が行われれば、タンザニア一国に限らず東アフリカ全域の発展につながるということを学んだ。JICAも幹線道路の整備はすでに行っていて、鉄道の建設も視野に入れているようである。

④タンザニア人の気質

以外と日本人に似て誠実で真面目な人が多いような気がした。多少大ざっぱなところもあるが、研修先で出会った人々やホストファミリーは皆物静かで、一緒にいても何ら違和感のようなものは感じなかった。アフリカに対して持っている陽気で乗りのいいイメージとはかなり異なっていた。日本人と同じように本音を言わない一面もあるようだ。

⑤タンザニア料理

レストランで食べた物、ホームステイ先で出された料理、そのどれも“これはだめ”というような物はなかった。美味しいと思うことの方が多かった。もちろん全ての料理を食べ尽したわけではないので、個人的な見解として、味覚が日本人のそれと似ているのではないかと思う。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

日本大使館訪問時に、岡田大使が最後に仰った言葉が心に残っている。「動物が見てみたいだけでも構いませんから、子供たちにアフリカに目を向けさせて欲しいと思います。いつかアフリカに行ってみようかなと思わせて下さい。」これこそが私たちに与えられた使命だと思っている。ただ今回の研修報告をするのでは自己満足に過ぎず、空回りしてしまう危険があると思う。子供たちに自ら考えさせ、どうやって自分の未来を切り開いていくかのヒントとなる授業をしたい。そのためには、1つ1つ見聞きしたものを紹介するのではなく、もう少し大きな視点でアフリカについての学習をしてみたいと思っている。帰国後会った生徒が口々に、「先生、体調大丈夫？エボラ出血熱にかかってない？」と言ってきた。アフリカ大陸の広大さや多様性を知らないのだが、身近な者がアフリカという所に行ったからこそ、アフリカに関するニュースに関心を示したのだと思う。この機を逃す手はないと思った。TANESO（電力公社）を訪問した際、職員の方が最後に「また来て下さいね。」と言ったので、「今度は、私ではなく、私の生徒たちが訪問します。」と言ったら、「OK！待っていますから。いつでも welcome ですから。よろしく伝えて下さいね。」と目を輝かせていたのが印象に残っている。10年後、20年後にそうなってくれたらうれしい。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

何よりもまず、国際協力の現場を目にすることができたこと。現場で活躍する日本人や現地のスタッフと交流できたことである。海外での生活や旅行はそれなりに経験してきたつもりだが、今回の研修旅行はそれらとは全く別物で、これからの教員生活や人生に大きな影響を与えるであろう。今回の研修に何の不満もないし、改善すべき点も見当たらない。しかし、それでは今後の教師派遣研修をよりよいものにするにはならないので、あえて1つだけ意見を述べてみたい。我々教員は、その所属する校種によって生徒・児童への接し方が全く違っている。高等学校・小・中学校・養護学校等、それぞれに特徴があり、使える手法や子供たちへのアプローチの仕方も異なっている。そこで学校訪問への提言として、校種別に教員を分散させても面白いかと思う。日本紹介の授業の仕方や、研修後のフィードバックの仕方にも役立つのではないかと思う。

6. 海外研修での役割（各担当や日直）を振り返っての感想・提案など

前回までの反省を受けて、今回初めてホテル係を設けたことは良かったと思う。チェックインも

スムーズに行えたし、朝食時間や場所も周知徹底できた。鍵の持ち帰りもなかった。

記録（写真）係に関して強いて言えば、“The Press”とか“JICA Report”などの腕章があれば、撮影しにくい場所でも行動しやすくなるのではないかと思った。

会計係はとにかく大変そうであった。担当してくれた増山先生が適任だったので万事卒なくこなしてくれたが、もう少し仕事を分散させてもよかったのではないかと思った。具体的には、会計係はあくまで大元の金庫番で、支払いや収支計算は各係が行うといったものだ。例えば、日本での物品調達係をおき、土産物や必要物資のチェックと収支報告をする。米ドルでのホテル代はホテル係が担当する。食事係を設け、レストランでの支払いを全て担当する。会計係からお金を預かり、支払いと収支計算をして会計係に報告するといったものだ。いずれにしても私案に過ぎないので、来年以降の参加者の意向に任せたい。しかし、会計係は大変だということは申し送りしておきたい。

7. その他、研修全般を通じての感想・意見など

今回の研修で初めてホームステイを行ってもらった。事前の調整はとても大変だったと思うが、現地の人々の生活を垣間見るという点では非常に有意義であったと思う。もし条件が整うならば、今後も取り入れて欲しい企画の一つである。当初は反対意見もあったというこの企画を、全て取り仕切ってくれた足立さん（タンザニア事務所の担当者）には、いつか改めてお礼が言いたいと思う。

今回の研修を振り返って今思うことは、間違いなく遠い所へ行って来たのだが、何故かそういう気がしない。すぐに戻れそうで……。時間的、空間的感覚が少し麻痺しているようだ。

8. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

教員というものは元来真面目で、研修前に授業案の提出もあって、こういう授業をしようという気持ちが強すぎたのは反省すべき点であったように思う。まず、ありのままの体験を受け入れ、それからゆっくりと考えればよいように思う。貴重な体験となるのは間違いないので、すぐに結果を出そうと思わなくてもよいのではないだろうか。行った先で新たな発見もあるし、想定していたのと違うこともある。私自身も今は、膨大な情報をきちんと整理し、時間をかけて熟成させるべきだと思っている。

通貨の両替に関しては、以前の参加者からタンザニアシリングが足りなくなったり、最低でも5万円の両替が必要だという話を聞いていたが、実際にはそれ程使うことはなかった。私は5万円を両替したが最後に余ってしまい、無理やり空港で使い切った。それ以上両替していた先生たちは、空港で再両替を余儀なくされた。しかし、両替所には十分な米ドルがなく、ユーロに交換しなければならなかったり、計算に時間が掛って待たされたりと非常に手間が掛った。研修先は途上国であることを考えると、日本に持ち帰ってもその国の通貨を換金することは難しく、適量の両替が必要であろう。中々事前に想定するのは難しいかもしれないが、自分が必要とする物の値段を確認しておいたり、支出が確実なものを計算しておいたり、出来る限り細かく、品目別に情報収集しておく方がよいかもしれない。

蛇足かもしれないが、アフリカという地域に関して言えば、防虫対策はしっかりした方がいいと思う。日本の蚊取り線香や防虫スプレーでは、蚊を追いやることはできても殺すことはできないようなので、殺虫成分の入ったスプレー等も有効であるように思う。それから、油断していたのだが最初に蚊の襲撃を受けたのは空港の到着ロビーだった。入国書類を書いている時に足をやられた。戦いはもう始まっていたのだ。

9. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
-----	-----	-----

8月11日(月) -12日(火)	日本からタンザニアまでの 移動中および現地到着	今回は羽田出発ということで時間に余裕があり、集合時間よりかなり早く集まり、皆で情報交換をすることができた。羽田からドーハ経由でダル・エス・サラームまで15時間、確かに長時間だが、以前同じルートでアフリカ入りしたことがあり、思ったほど長くは感じなかった。ドーハ空港は、ただただだっ広くて、店もオープンしておらず、何もすることがなかった。乗り継ぎ時間が2時間という短さに救われた。
8月12日(火)	JICA タンザニア事務所表敬 研修ブリーフィング	大西所長、友成次長、専門の担当者から、タンザニア概要、JICA の活動方針と事業内容、健康管理と安全対策等、その1つ1つがためになるものであった。特に、都市部の治安が悪化しているとの報告が気に掛かった。研修後の JICA 職員との夕食会も通して、貴重な話を聞くことができた。
8月12日(火)	本日の振り返り	タンザニアの第1印象や JICA 事務所での研修等について意見交換を行った。その他、会計、ホテル係からの連絡等、初日だったせいか皆どころなくぎこちなかった。
8月13日(水)	JICA タンザニア事務所 研修ブリーフィング	再びタンザニア概要、教育事情と学校制度、水セクターについての講義を受ける。これから向かうザンジバルの特異性に興味を引かれる。地元の人が使う定食屋で昼食をとり、初めてのタンザニア料理を味わう。郵便局では、外国人が好きそうな切手を1枚1枚選んでくれる女性職員の心遣いがうれしかった。
8月13日(水)	ザンジバルへ移動	船着き場は喧騒に溢れかえっていた。ポーターとの料金交渉、空港並みの保安検査と、乗船までに予想以上に手間が掛かった。ザンジバルではパスポートコントロールがあり、元は別の国ということを実感した。ザンジバルの風はダルのそれとは全く別物で、どこか心地よかった。
8月13日(木)	隊員との懇談会	異国情緒溢れるレストランでベルギー料理を堪能した。隊員たちは皆若く、使命感に燃えていた。日本でのこと、こちらへ来てからのこと、ひとりひとりの物語を聞くことができ興味深かった。
8月13日(水)	本日の振り返り	明日からの本格的な研修を前に、見学の手順等の確認を行った。また、ザンジバルの印象についても語り合った。
8月14日(木)	ムナジモジャ病院 沢谷隊員 活動視察	リハビリ施設と入院病棟を主に見学した。リハビリ施設では、実際の間診や施術の現場を見ることができた。入院病棟では子供たちに折り紙を手渡すことができた。少しでも子供たちの気が晴れて

		<p>くれることを願った。入院には24時間母親たちが付き添っていて、日本との違いを感じた。沢谷隊員は地元・病院に溶け込んでいて、信頼されるスタッフの一員となっていることがよく分かった。院長を始めとする職員も皆好意的で、細部にわたって説明をしてくれるなど、受け入れ準備がきちんとできていた。これは全て沢谷隊員が日頃から人間関係をしっかりと構築している表れであると思った。</p>
8月14日(木)	専門家との懇談会	<p>海辺のレストランでの会食となった。専門家の方々は皆個性的で、人を引き付ける魅力があった。</p>
8月14日(木)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	<p>まず感じたのは、専門家チーム・ZAWA 職員、全体が welcome な雰囲気であったことだ。この事業がうまくいっている証しであると思った。この日は供給側の施設である水源や配水所を見て回った。車が何台も連なり、全員が JICA のキャップを被っての視察は圧巻であった。夕方、Pチ観光に連れて行ってもらった。あいにく博物館は閉館してしまっていたが、その代わりに旧奴隷市場を見学することができた。ザンジバルの歴史を感じることもできた。</p>
8月14日(木)	本日の振り返り	<p>内容の濃い1日であった。病院、水公社と全く異なる施設を視察し、感想・意見・それぞれの思いが交錯し、振り返りにも時間が掛かった。しかし、皆頭の片隅に明日のホームステイがあり、期待と不安が入り混じった何とも言えない夜であった。</p>
8月15日(金)	ザンジバル水公社 (ZAWA) プロジェクトサイト視察	<p>本日は需給側の施設を見学した。水道メーターの設置してある村では、家の中まで見せてもらった。ストーンタウンの壁を這う排水管や、有料の給水スタンド(Water Kiosk)が興味深く、印象に残っている。視察後、ZAWA 職員との意見交換会を行った。改めて、JICA 担当者・専門家チーム・ZAWA 職員、誰もが本気でこのプロジェクトに賭けていて、その意気込みに熱いものを感じた。</p>
8月15日(金)	ホームステイ先との交流	<p>ホテルでホストファザーと面会后、車で自宅に向かう。途中子供たちをピックアップした。子供たちは皆英語で話しかけてきたので少しびっくりした。私が来るのを待ちわびてくれていた様である。特に姉妹(長女10歳・次女8歳)は興味津々で、この後家でもずっと傍にいた。家でママさんに挨拶後お土産を渡す。少し休憩した後、長男(10歳)が毎日エクササイズのため海で泳いでいるとのことで、男子チームでビーチに向かう。ビーチとい</p>

		<p>っても漁港に毛が生えたような場所だったので、あまり気乗りはしなかったが期待を裏切れず海に入る。個人メドレーで度肝を抜くと、地元の若者たちが水泳を教える欲しいと沢山寄って来たのでクロールとバックを手ほどきした。バタフライは無理だからと教えなかった。夕方家の前を出ていたら30人近い子供たちに囲まれ色々と話をした。15・16歳の学生たちは英語ができたので調度いい通訳となった。通りかかった大人と言葉を交わす時には、子供たちは遠慮して傍を離れた。空には鳥だと思ったら、コウモリの大群が飛んでいた。夜はパパさん、ママさん、それぞれに礼拝に出掛け、夕食は9時頃になった。子供たちはぐったりとしていた。ダイニングにはパパさんと私だけで、ママさんと子供たちは別の場所で食べていた。フライドポテト、焼魚、山のようなフルーツ、デザートはドーナツ、どれもみな美味しかった。お湯が使いたかったら言ってねとママさんに言われていたが、誰も風呂に入らなかったのもシャワーも浴びずそのまま寝る。</p>
8月16日(土)	ホームステイ先との交流	<p>朝、従兄(8歳)に連れられて2軒先の小野先生のホームステイ先を訪ねる。その後、パパさんが礼拝に行っている間に、長男と近所を散歩する。乾物屋でお菓子を買う。少額だったのでお釣りで初めてコインを手にした。朝食はトーストサンドイッチと卵焼き、それにフルーツとティーだった。2度目の礼拝の後、パパさんが市内観光に連れて行ってくれた。動物園や博物館を見学した。職場の技術校も案内してくれた。入場料を全て払ってくれてしまい少し気が引けた。ただ、入るのに少し時間が掛かったのは、高額な外国人料金でなく、地元料金で入ったためであったようだ。帰宅後、最後の昼食をとった。フライドライス、バナナのシチュー、焼きタコ、焼魚、ほうれんそう炒め、スイカなどのフルーツ、最大限のもてなしをしてくれた。ホテルへ帰る時間が迫ってくると、長女が「帰るのは明日にしたら?明日帰って、お願い。」と言ってきた。次女はぴったりとくっついて離れなかった。心が傷んだ。その他気がついたこと。子供たちはけっして私の部屋には入ってこなかった。しつけがしっかりとなされていた。パパさんは博識な人で、旧ソビエトへの留学経験や、日本での研修経験もあり、まさかタンザニアの片隅で</p>

		世界情勢について話し合うとは思わなかった。
8月16日(土)	教材購入	シャワーを浴びて休息し、ショッピングには出掛けなかった。
8月16日(土)	本日の振り返り	前日のZAWAでの研修やホームステイでの体験等、この日の振り返りもボリュームがあった。夕食は初めて自分たちだけでとったので、のんびりした時間を過ごすことができた。
8月17日(日)	ダルエスサラームへ移動	体調を崩してしまった。腹痛に苦しめられ、船が物凄く揺れていたがそれどころではなかったのが不幸中の幸いであった。絶食に入る。
8月17日(日)	モロゴロへ移動	ずっとダウンしていて、気がついたら着いていた。その後の市場見学もパスし、ホテルで寝ていた。とにかく体調を戻すことだけに専念した。途中、ドドマ大学の女子大生サラさんが合流。
8月17日(日)	隊員との懇親会	稲村隊員と赤堀隊員の2名からタンザニアの教育や学校事情を聞くことができた。翌日の学校訪問がより楽しみになった。個人的には、足立さん(タンザニア事務所の担当者)に勧められたスープに救われた。
8月17日(日)	本日の振り返り	やっとメインイベントとばかりに、中等学校での活動に対する先生方の思いが炸裂した打合せとなった。1つ決めるにも相当な時間が掛かったことを覚えている。最後は皆ぐったりしていた。
8月18日(月)	キラカラ中等学校 稲村隊員 活動視察	天候も良く、山裾に広がるキラカラ中等学校は、雰囲気の良い落ち着いた女子校であった。生徒も先生方も友好的で、当然のごとく英語が通じた。聞いていた通り生徒たちは優秀で、ノートやレポートを英語で書き進める、英語の書く力は素晴らしかった。しかし、写真を撮った後に必ず自分がどう写っているかをチェックするところは、日本の女子高生と同じだった。稲村隊員の授業では、生徒たちが日本式の挨拶、日本語、日本の歌まで披露してくれた。たった数カ月で完璧にマスターしていた。その後、私たちの自己紹介、JAMBO BWANA(スワヒリ語圏のヒット曲)披露、ペン習字、日本の歌(明日があるさ)披露などを行った。ペン習字では、短冊にカタカナで自分の名前を書き、折り紙やシール等で装飾した。後に稲村隊員から聞いた話では、生徒たちはいまだに自分の名前を練習しているそうである。最後に校長先生の所へ挨拶に行くと、ティーの時間がなかったことを知り、わざわざ昼食用の軽食を用意してくれた。
8月18日(月)	ダルエスサラームへ移動	私だけではなく、団員の大半が体調不良やら疲れ

		<p>などで、行きのバスの中では寝ていたことを知る。そこで帰りは、バスの中からの大写真撮影会となった。希望者のみ、革命家こと島岡氏との夕食会に臨んだ。私は残ってホテルのレストランで夕食をとったが、メニューのほとんどのものがなく、頼んだ料理も出てくるのに1時間以上掛かった。</p>
8月18日(月)	本日の振り返り	<p>遅い時間からの振り返りとなった。キラカラ中等学校での反省と翌日の打合せを行った。革命家のインパクトが強過ぎたようで、随所にエピソードが入ってきて、何の話をしているのか分からなくなる場面が多々あった。</p>
8月19日(火)	タンザニア電力供給公社 (TANESCO) プロジェクトサイト視察	<p>TANESCO (電力公社) の概要、プロジェクトの現状等の講義の後、実際の研修現場を視察する。このプロジェクトでは人材育成に力点が置かれていることを知った。ここでも、日本人の専門家や現地スタッフの熱意を感じた。やはり昼食用のティーを用意してくれていた。今までの研修から来訪者を最大限もてなすのがタンザニアスタイルであることを学んだ。</p>
8月19日(火)	教材等購入	<p>ティンガティンガ村とショッピングセンターで教材や土産を購入した。サラさんがずっと付き合ってくれて、ガイド兼通訳のような役をしてくれた。彼女は日本の大学への留学が決まっているので、日本へ来た時には、皆で彼女をサポートできたらいいと思っている。</p>
8月19日(火)	本日の振り返り	<p>電力公社で学んだことの確認、教材の紹介、今後の授業案等について話し合った。最後の振り返りだったので、研修全般における反省や問題点等についても率直な意見交換を行った。タンザニアでの最後の晩だったので、反省会の後に近く中華レストランで夕食をとった。妙に気のきく店員と場末のホステスのようなウエイトレスが印象に残っている。タンザニアやアフリカ諸国への中国人の進出の多さは知っていたが、このレストラン内だけでもそれを実感することとなった。</p>
8月20日(水)	JICA タンザニア事務所 報告会	<p>友成次長と研修最後の報告会を行った。内容は、「研修で得たこと」「それをどう活かしていくか」であった。発言の順番が1番最後でだんだん言うことがなくなってきた少し焦った。それだけ一人一人が多くのことを学び、振り返りをしっかりと行ってきたので情報共有ができた証しだと思う。どの意見も、まるで自分の言葉であるかのような錯覚に陥っていた。</p>

8月20日(水)	在タンザニア日本大使館 表敬訪問	全員正装にて日本大使館を表敬訪問。岡田大使との懇談。私たち一人一人の研修報告に真摯に耳を傾けてくださり、質問にも率直に答えて頂いた。
8月20日(水) -21日(木)	タンザニアから日本までの 移動中および日本到着	ホテルにて着替えをした後、空港へと出発する。空港の駐車場からはもうポーターはいないので、自分たちでスーツケースを山積みにしたカートを押して行った。チェックインと再両替に思いの外時間が掛かる。土産物屋でシリングを使い切った。空港のロビーや飛行機の機内で、日本に近づくにつれて少しずつ夢から覚めていった。